

奈良県立医科大学 学報

April
2009 vol. 28



平成20年度 卒業式

CONTENTS

卒業式学長式辞	1~2
卒業式の概況 / 学長賞・厳福賞・華福賞	3
退任挨拶	4
寄附講座「血栓制御医学講座」開設	5
医学教育シリーズ18	6~7
平成21年度予算	8~9
ホオジロ通信	10
チェンマイ大学との学術交流 / 看護学科卒業研究発表会 / 公開講座開催報告	11
先端研だより	12
平成20年度 外部資金受入状況一覧	13~15
奈良先端科学技術大学院大学と包括協定を締結 / 看護部から	16
病棟紹介(C8・中央手術部・中央放射線部)	17
法務大臣感謝状 / 看護学科同窓会開催案内 / 住居医学研究会	18
福建医科大学との学術交流 / 中島賞受賞者決定	19
国試結果 / 学位授与 / 入試結果	20
レポート	21
AED設置 / 苗木の寄贈 / 下ツ道 / 広告	22

卒業式式辞 「愛する奈良医大を育む心(母校愛)を持って」学長 吉岡 章

医学科第54期生98名、看護学科2期生78名の諸君、卒業おめでとう。奈良県立医科大学の教職員を代表して心からお祝いのメッセージを贈ります。無事この日を迎えられたのは、諸君の医学、看護学に対する意欲的な勉学が功を奏したものと、うれしく思います。加えて、厳しく、かつ、温かく見守り続けて下さった教官・職員の方々、さらに、愛情に満ちた応援を惜しまなかったご家族や友人のお陰であることも忘れないでください。

医学科卒業生諸君は、いよいよ2年間の臨床研修が始まります。本学附属病院を中心としたプログラムを選んだ人と学外・県外プログラムを選択した人がほぼ相半ばしましたが、私共はもっと多くの諸君に大学や関連病院に残って欲しかったというのが正直な気持ちです。一方、看護学科の場合は、全卒業生の約44%が本学附属病院に就職します。諸君の自覚が高まって、昨年の第一期生の13%に比べると、うんと増えた訳です。もっとも、私は、まだ納得していませんが……。

諸君は、6年前、4年前に、希望に満ちてこの奈良医大の門をくぐりました。これは、人生における大きな出会いであり、ある種の運命なのです。このことは、人生の中で、諸君自身が大切にしなければならないことの一つなのです。特に、看護学科の諸君に申します。新しい4年制看護学科の第一期生や第二期生といった諸君こそが、学科設立の精神を十分に理解し、諸君が一体とな

って「母校愛」の精神を持ち、母校の伝統の礎を創造し、さらに、それを後輩に伝えていく、そんな使命を担っているのです。あなた方が母校であるこの奈良医大に、特別な思いを馳せることなしに、いったい誰がそれを築いていくのでしょうか？ 人は「母校」、それは「母なる港」でもありますが、これを大切にしないでは、それぞれの人生は根なし草になりかねません。

どうか、看護学科のみなさん、そして医学科の諸君、母校を大切にしてください。私は決して頭から「母校愛を持って」と言っているわけではありません。私の「母校愛」とは「愛する奈良医大を育む心」を大切に育ててほしいということなのです。どこでどんなに発展しようと、成功しようとも、また、どんな艱難辛苦に遭おうとも、ここ奈良医大という母なる大学、母なる港に心が繋がっていることが大切なのです。私共教職員は、この奈良医大を諸君が母校として、誇りとし、頼むに足る大学にさらに磨き上げていくことを約束します。どうか諸君はいつでも、どこにいても、ここ奈良医大に戻って来ることが出来ることを忘れないでください。

諸君のこれからの医療人としての生活は極めて厳しいものがあります。

これまでの学生としての受身の人生から、突然、社会人としての能動的な人生、それも深刻な病気や悩みを持つ生身のヒト、人間とその家族や複雑な社会を直接相手にすることになります。毎日毎日、自らが自らを高める克己心を持たずして、医師や看護師という重い社会的要請に応えることは出来ません。どうか志を高く持ってください。そして自らの品格を高めてください。

私は、この4月17日～19日に奈良市で第112回の日本小児科学会学術集会を主催します。「歴史に学び、未来をひらく小児医療」をキーワードに全国の小児科医5,000名が集まり、若葉の奈良公園内の奈良県文化会館と新公会堂で、勉強し、討論します。

この学術集会の特別講演として、ベストセラーとなった「国家の品格」の著者で、お茶の水女子大学数学科教授の藤原正彦先生に「日本のこれから」と題してお話しをお伺いすることになっています。先生は「劔岳 点の記」など山岳小説で高名な新田次郎さんと作家藤原ていさん御夫妻のご次男として、3歳で満州からの苦難に満ちた引き上げをされています。藤原先生は「国家の品格」や数々の著書の中で、日本人の品格は武士道精神の中軸である「惻隱の情」、即ち「思いやりの情」であると述べておられます。

諸君が明日からおつき合いを始める人達の多くは「病」を持つ弱い人間です。しかし、そのお一人お一人には、かけがえのない歴史、そして、家族と社会があります。即ち、その方が歩んで来た「人生」があります。この一人一人のかけがえのない人生に思いを馳せること、そのことこそが「惻隱の情」ではないか、と私は思うのです。

どうか諸君、明日からは患者さんお一人お一人の人生に思いを馳せることの出来るドクターやナースを目指して精進してください。そんな人になろうとする努力を開始してください。その心を持つと自覚することで「惻隱の情」が生まれ、医師として、看護師としての品格、社会人としての品格が醸成されていくものと信じます。

諸君の前途洋々たらんことを信じ、幸多かれと祈ります。

卒業式

医学部卒業式(平成21年3月17日)

医学科98名、看護学科78名が卒業しました。
また、学長賞等が次の方々に贈られました。

- ・奈良県立医科大学学長賞 医学科 久保 政之さん
看護学科 山口 真理子さん

学長賞は医学科6年間、看護学科4年間の課程で最も優秀な成績を修めた学生を表彰するものです。

- ・医学科同窓会^{いつかし}厳檀賞 菅生 貴仁さん、和田 聖哉さん、伊藤 妙子さん、森 英一朗さん
- ・看護学科同窓会^{はなかし}華檀賞 今川 名奈子さん、東根 綾香さん、牛若 摩紀さん、小林 政雄さん

厳檀賞(医学科)、華檀賞(看護学科)は、クラスのリーダーとして活躍した学生(ヒーローオブザクラス)、クラブ活動で本学の名声を高めた学生、社会で賞賛すべき活動を行った学生を同窓会が表彰するものです。

大学院修了式

15名が修了しました。
また、研究奨励賞が次の方に贈られました。

- ・奈良県立医科大学大学院博士課程研究奨励賞 木村 久仁子 さん



平成20年度奈良県立医科大学医学科学長賞受賞にあたって 久保 政之

このたびは名誉ある学長賞をいただき、喜ばしく思うと同時に、身に余る光栄に気が引き締まる思いです。ここに卒業を迎え、勉学の面でも思い出されるのは臨床実習と勉強会です。臨床実習ではベッドサイドにおいて患者さんの声に耳を傾け、診察することの大切さを先生方から学び、さらには患者さんと接することで多くの学び・気づきがあることを患者さんご自身から教えていただきました。また、同級生だけでなく、研修医の先生方や下級生と行ったケーススタディでは良い刺激を受けるとともに、何よりも自主的な学びのもつ楽しさを感じることができました。最後になりましたが、6年間ご指導いただいた先生方、ともに学んだ同級生・下級生、そして「もう一度大学に行く」といった私の我が儘を許し支えてくれた家族と妻に心より感謝致します。神の手を持つことは私には難しいですが、患者さんの手を暖かく包める優しい手を持つ医師になることを目指します。



学長賞をいただいて 山口 真理子

卒業に際しこのような賞をいただき、驚きと喜びでいっぱいです。四年前、社会人入試を経て入学した時は、同級生についていけるのかといった一抹の不安を抱えてのスタートでした。一回りも年上の私に、同級生はごく自然に接してくれました。同じ助産専攻の仲間は、私の受賞を我が事のように喜んでくれました。暖かい心を持つ仲間と学べたことを感謝しています。

また勉強のことだけでなく、悩みや迷いにも耳を傾け、真摯に向き合ってくださいました先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。そして、仕事を辞めて看護を学ぶことを応援してくれた家族がいなければ、このような賞はいただけなかったと思います。私が周囲の方々に支えられて卒業できることを、この賞に再認識させてもらいました。卒業後もこの気持ちを忘れず、今度は自分が患者さんの支えになれるよう、努力していきたいと思っております。ありがとうございました。



大学院博士課程研究奨励賞を受賞して 第1内科 木村 久仁子

このたびは大学院博士課程研究奨励賞という大変すばらしい賞を頂き、光栄に存じます。吉岡学長をはじめ、これまでご指導下さいました諸先生方に心より感謝申し上げます。

私は卒後4年目から大学院に進学し、腎間質線維化をテーマに研究を続けてまいりました。線維化は諸臓器の臓器不全に共通する病態であることから、線維化に関する研究は臓器不全の治療法開発に繋がる重要なテーマであると考えています。また、研究生活を通じて、多くの研究成果がどれほど地道な努力の積み重ねによって生み出されたものであるか、そしてそれらが医学の進歩には必須であることを実感しました。医師として日常診療に携わることはさることながら、科学的な目をもって疾患の病因や病態の探求に努めることの重要性を学びました。

今後もこの賞を励みに、微力ながら医学の進歩に貢献すべくさらに研鑽に努めて参りたいと思っております。

退任あいさつ

退任のご挨拶

第一解剖学講座 教授 東野 義之



平成20年度系統解剖学実習中の
医学科2年生学生と第一解剖学講座教官

40年間の第一解剖学講座に在職中は、多くの先生方、並びに職員の方々には本当にお世話になりました。心よりお礼申し上げます。また、献体組織の白菊会員の皆様には、心よりお礼申し上げます。今後、本学が益々発展することを願っています。

私は縁あって退任後、タイ国チェンマイ大学で研究を継続する予定です。このきっかけを作って頂いたのは、化学教室の大崎茂芳教授です。平成12年7月に大崎教授が私の部屋に来られ、「私は姉妹校のタイ国チェンマイ大学に行きますが、一緒に行きませんか。総務課の担当者に先生も行くと言っておきました」と言われました。この一言が後で重要になるとは、其の時は思いもしませんでした。平成13年2月にチェンマイ大学医学部解剖学教室を初めて訪問して以来、共同研究のために毎年2回、8年間で17回訪問致しました。私はチェンマイ大学、解剖学教室の先生方、チェンマイの街が段々好きになり、退任後はチェンマイに住もうと思うようになりました。2年前に、チェンマイで開催されたタイ国解剖学会に招待された折に、退任後チェンマイ大学医学部解剖学教室で働くことが決まりました。それで、4月から予定どおり、チェンマイで家を借り、チェンマイ大学医学部解剖学教室の客員研究員として働きます。チェンマイにお越しの節は是非お立寄り下さい。

退官にあたり

整形外科学講座 教授 高倉 義典



初期の研修を終えて帰学した昭和48年以来、県立三室病院に3年間出向した以外の約35年間を大学でお世話になりました。曲がりなりにも医学の分野で教職を得て、若い人の育成に幾分なりとも貢献出来たことは望外の喜びでした。毎年毎年、新しい学生諸君や研修医諸君と対等にお付き合いできたことは、私にとりましては若さを保つ原動力になってきました。

教授就任5年目にして、病院の経営や運営に無知のまま病院長に推薦されて就任いたしました3年間は、多くの貴重な経験をさせていただきました。精神医療センター、セカンドオピニオン外来、女性外来、化学療法外来、遺伝カウンセリング外来等を開設させていただき、公立8大学附属病院では抜きん出たトップの収入を得ることが出来ました。これは偏に医師、看護師、技師をはじめとする病院勤務者の方々の努力の賜と心から感謝していた次第です。本院は他の大学附属病院とは異なり、市民病院的な役割も果たさなければならない結果、軽症から重傷までの全ての救急患者を受け入れ、膨大な外来および入院患者を扱っているために得られた高収入です。そのため、勤務者は厳しい業務を強いられており、種々の支出面での改革により、収支を改善して皆に還元すべきだと思っていました。残念ながら、私の力不足でこの件を達成することは出来ませんでした。是非、今後に期待したいと思います。

最後に、二期目の就任途中において一身上の都合から、病院長を辞任して多くの関係の方々にご迷惑をお掛けしたことを心からお詫び申し上げます。

「邂逅」

総合医療学 教授 中村 忍



病棟回診

年齢を重ねるにつれて月日の過ぎるのが加速度的に早く感じられるようになるといわれていますが、まさしくそのような9年間でした。

平成12年4月に金沢から着任し、緊張のぬけないまま教授会で「当科は各科の協力が得られないと運営ができないので、よろしく願います」と挨拶をしたのを思い出します。多くの方々のご支援により、この度無事に定年を迎えられたことを、心から感謝しております。

全国的に総合診療科の設置が進む中、平成11年1月に当講座、診療科が新設されました。どのような運営を行うべきなのか、どうすればニーズに応えられるかなど、多くの問題点を含んだままの出発でしたが、外来診療、病棟診療が始まり、それぞれの専門を生かしながら総合診療を目指して教室員全員努力して来ました。また、総合医療学講座としては臨床実習に入る前の共用試験の導入に携わり、皆様のご協力のもと現在順調に運営されています。医療混迷の現在、地域医療を担う医師の育成に向けて、今後教育の場での役割はさらに重くなるものと思います。

附属図書館長の時には、電子ジャーナルが高騰する折から予算の確保に頭を痛めたり、職員に尻を叩かれながら情報の記録、発信のための機関リポジトリを立ち上げたのも思い出のひとつになっています。

多くの人に恵まれ、出会い、暖かい環境の中で楽しく仕事が出来たことを改めて感謝するとともに、本学の益々の発展を祈念しております。

バイエル薬品寄附講座「血栓制御医学講座」を開設

(研究推進課)

平成21年4月にバイエル薬品株式会社による寄附講座「血栓制御医学講座」を開設しました。本学には、血友病等に代表される先天性止血異常症(出血症)や病的血栓症に関する世界的な臨床・基礎研究実績があり、これらの研究実績を基盤とした先進的研究を進めることで、止血および病的血栓形成メカニズムの解明と、その制御(治療と予防)に関する成果が期待できます。

一方、バイエル薬品株式会社では、血栓形成のメカニズム究明とその制御が人々の「よりよい暮らし」を実現させるものと位置づけています。

近年、心筋梗塞や脳梗塞などの致死性血栓症が増加しており、その高額な医療費や介護に掛かる負担は、家庭ばかりでなく国家の保険財政をも圧迫しています。この傾向に歯止めをかけ、社会的貢献を果たすことが本学及びバイエル薬品株式会社の共通の使命であると考え、本講座の開設に至りました。

本学においては、平成18年度開設の「住居医学講座」に続く2番目の寄附講座となります。

寄附講座「血栓制御医学講座」の概要

- ・ 講座開設期間 平成21年度～平成26年度(6年間)
- ・ 寄 附 者 バイエル薬品株式会社(本社 大阪市北区梅田2-4-9 フリーゼタワー)
- ・ 寄附予定額 総額187,500,000円
- ・ 研究領域 血栓形成の分子細胞メカニズムの解明とその制御
- ・ 寄附講座教授 杉本 充彦
- ・ 研究プロジェクト 病的血栓症を「生体防御システムの過剰反応」という観点で捉え、「現代のライフスタイルに対応する止血メカニズムの適正な制御」による病的血栓症の制圧を目標とします。

理事長 吉岡 章

奈良県立医科大学は、産学官連携の下に、教育・研究・診療の実績をさらに発展させ、県民はもとより広く社会の要請と信頼に応えるべく努力を重ねてきております。今回、グローバル企業であるバイエル社から社会的貢献(CSR)の一環として講座を提供いただけることは、私どもが進めています「3Y(夢・喜び・やりがい)」の精神を持って「血栓症制圧」に向けた本学の医学的戦略に大きく寄与するものと確信します。

血栓制御医学講座 教授 杉本 充彦(すぎもと みつひこ)



このたび、奈良県立医科大学の第2番目の寄附講座「血栓制御医学」の教授に選任されましたことを大変光栄に思っております。本来、止血メカニズムは怪我をした時などの出血を止めるための生命維持に必須の生体防御システムです。しかし、メタボリックシンドロームなどが問題となる現代のライフスタイルでは、この止血メカニズムの亢進が心筋梗塞や脳梗塞などの病的血栓症の「引き金」となっています。本講座では、半世紀以上にわたる奈良県立医科大学の血栓止血学の伝統を継承・結集して、いまや国民病ともいえる【血栓症】の制圧に向けた研究を進めていきたいと考えております。

英国医学教育事情:特に地域基盤型医療教育の実情について

教育開発センター 総合医療学 藤本 眞一
教育開発センター 森田 孝夫

今回、英国の代表的な医科大学である、King's CollegeとImperial Collegeの2校を訪問し、英国の医学教育の現状、特に、地域基盤型医療教育（community based medical education）の実情について知る機会を得たので、紹介したい。

英国の医学教育は日本と同様に、高校を卒業して医科大学に入学するが、教育課程は5年間である。最初の二年間は基礎医学及び臨床医学を学ぶ。その後の二年間は主に病院での実習(ローテーション)であり、最後の一年間は地域(学外)での実習をおこなう。英国では、国家試験がないので卒業すると医師となる。つまり、大学が医師認定の責任を負うのである。

英国のKing's Collegeは、有名なGuy's Hospitalを中心とする伝統ある医科大学(学生数1学年410人)である。しかし、最近15年間で、community based educationを大幅に教育に取り入れ、卒業生の60%がGP（General Practitioner）になるという状況にマッチした地域基盤型医療教育を実践している。実際、授業全体の15%以上をGPでの教育が占めている。Department of General Practice and Primary Careの教授Dr. Roger Jones, 講師Dr. Anne Stephensonらが、GPに関連した教育を運営している。カリキュラムの概要を図に示した。

1年次の初めから、GPを見学する。入学時から、生化学、認知行動科学を含めた基礎医学についての内容を臨床のシナリオを用い、問題基盤型学習の形式で学ぶ。1年の第2タームから、週1回GPのところに出かけ、毎週違った疾患を持った患者との面接により病歴を聞き、患者の身体所見や、検査所見もみて、その症例を基に問題基盤型学習で基礎医学、臨床医学を学んでいく。同時に、1年次では、通年で小グループに分かれて「スキルラボ」(技能教育センター)に通い、臨床の基本技術をコメディカルの専任スタッフの指導を受け、自習しながら学んでいく。1学年終了時点で、筆記試験がある。

2年次にはより高度の臨床的内容について、週一回のGPで遭遇した症例を用いて問題基盤型学習で学んでいく。2年の終了時点で、すでに客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた評価を受ける。

3年次から、6週間半毎に1つの診療科を回るローテーションがある。内科、一般外科を中心とした6診療科を回るもので、本邦のポリクリ(臨床実習)に相当する実習である。2診療科ごとに筆記試験がある。学年の終了時点でOSCEと筆記試験がある。

4年次では小児科、婦人科、泌尿器科、老年科、救急科をローテーションする。学年の終了時にOSCEによる試験がある。3年次と4年次には実習の期間中に、e-learningシステムを用いた症例中心のweb自習システムで臨床医学について学習する。それぞれのweb自習システムの終りにweb画面上に試験が組み込まれている。10セクションで8セクション以上の合格が必須である。

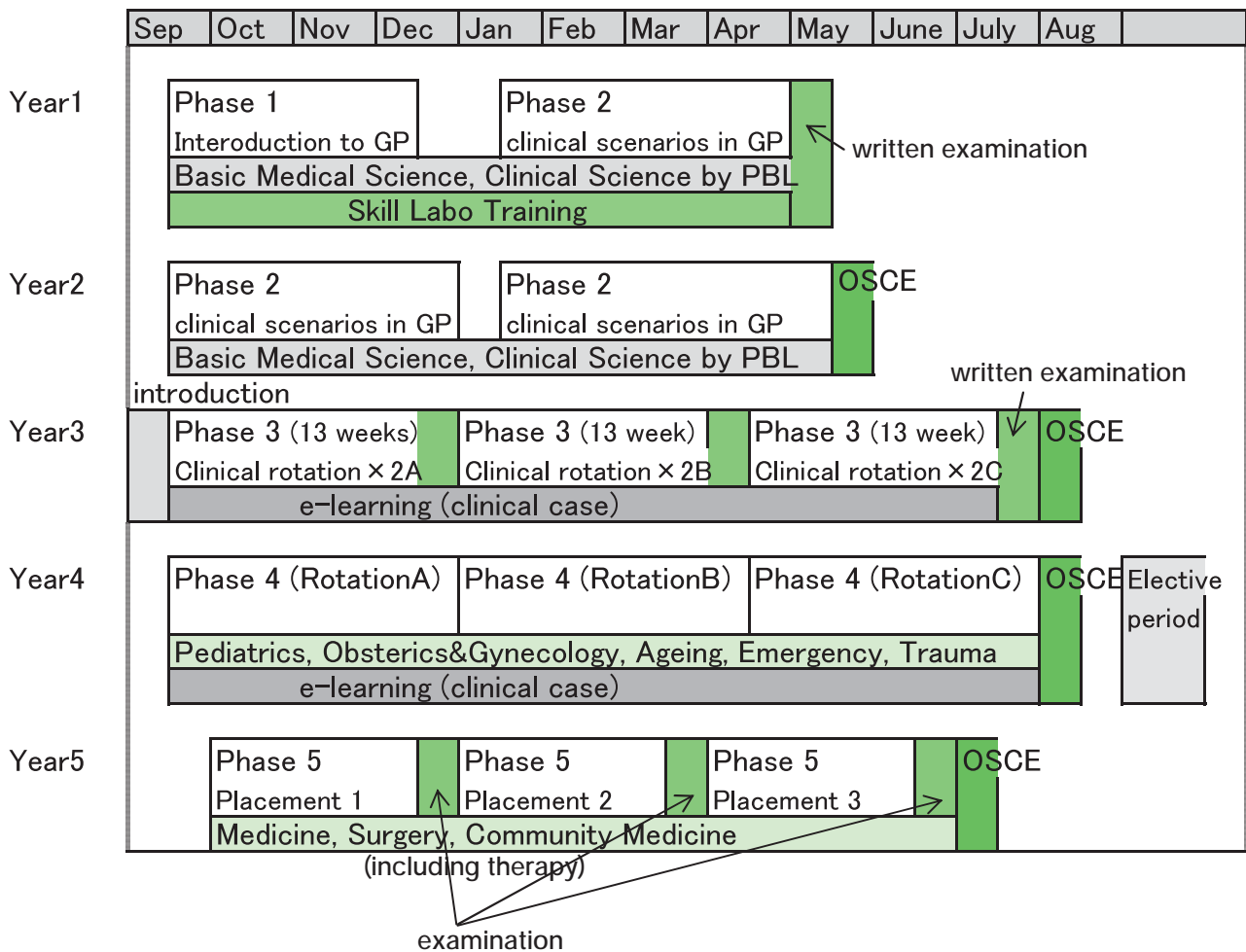
5年次はほとんど病院で過ごす。内科、外科、GPでのローテーションに参加する。各セクションの終りに筆記試験、5月にはOSCEがあり、試験には処方まで問われる。英国では、国家試験がないので、この試験に合格すると、医師と認定されることになる。

Imperial College(学生数1学年100名)も、ほとんどKing's Collegeと同様な教育であるが、大きな違いは二つある。一つは4年次の全期間に研究に従事して学士の学位を取ることであり、従って教育課程は1年長くなり6年間である。もう一つは全学年を通じてe-learningシステムが完備されていることで、

講義は初回の導入と最後のまとめだけにあることである。Department of Primary Care のDr. Paul Booton が卒前教育の担当者である。

両大学を含め英国の医科大学で共通することは、community based educationとe-learningを積極的に導入している点である。本学で導入を進めている地域基盤型医療教育をより実効性のあるものとするために大変参考になる教育システムと考えられた。

King's Collge のカリキュラム



King's CollegeのProf. Jones (中央)と
Department of Primary Care



Imperial College の Department of Primary Care の
Dr. Booton (右から2番目)と

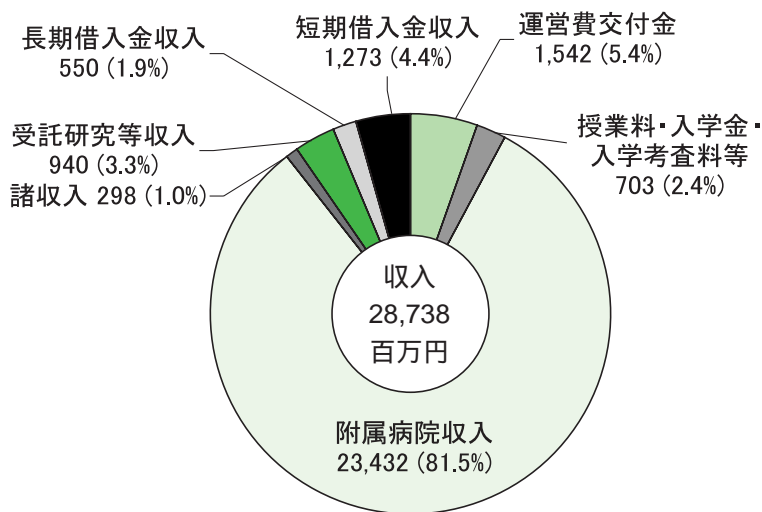
平成21年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

平成21年度予算は、医師・看護師などを確保したことによる人件費の増のほか、医事委託費などの診療経費の増のため、総額287億3,708万円となり、前年度の予算に比べて11億7,561万円の増加となり、収入に比べて支出が多く、収入の不足を短期借入金で補う赤字予算となっています。

しかしながら平成21年度は、マンパワーの確保により病床稼働率の向上を図るなど、経営改善に向けた取組みを行うことが可能となり、厳しい経営状況にも反転の兆しが見えるようになりました。また、前年度に引き続き看護師の確保に努め、平成22年度には「7対1」看護体制の導入を図るなど、法人経営の改善に向けた取組みを進めていきますので、職員のみなさんには、それぞれの分野でのご協力をよろしくお願いいたします。

平成21年度予算の構成比

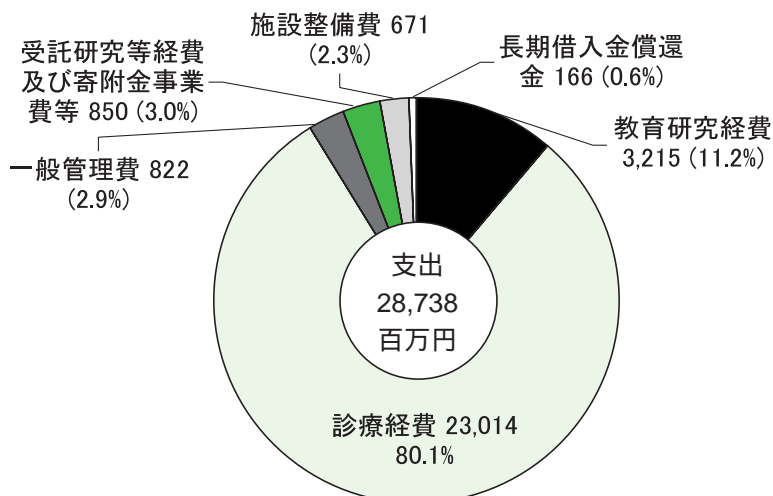
予算総額：28,737,087千円（対前年比1,175,606千円、4.3%増）



【収入】

- 運営費交付金
法人の効率的で安定的な運営を確保するため、県から交付されるもの
- 授業料・入学金・入学考査料等
大学、大学院授業料及び入学金など
- 附属病院収入
診療報酬、診断書手数料など
- 諸収入
駐車場収入、国庫補助金など
- 受託研究等収入
外部からの資金
- 長期借入金収入
医療機器の整備に関する借入金

(単位：百万円)



【支出】

- 教育研究経費
教育関係費、研究関係費、図書館の経費など
- 診療経費
医薬材料費、医事委託費、機器保守経費及び診療にかかる人件費など
- 一般管理費
火災保険、銀行手数料など法人運営に関する経費（人件費を含む）
- 施設整備費
医療用備品整備及び大学・病院施設改修など
- 受託研究経費及び寄附金事業
寄附講座、寄附金・受託収入及び科学研究費等による研究事業経費

平成21年度予算の主要事業・新規事業

○教育研究の充実

新 学生増に対応 医学科定員増などに対応するため、実験実習費や教育用備品費を増額	8,790千円 増額
新 教育環境の充実 老朽化した教育用顕微鏡の更新など教育用備品や解剖実習室のホルムアルデヒド対策など	47,500千円
新 地域医療教育の充実（教育GP推進事業） 地域医療に貢献する医療人の育成を図るための実施体制を整備	9,700千円 <small>（文部科学省 大学改革推進事業補助金）</small>
新 ファカルティ・ディベロップメントの実施 授業評価や単位互換制度、教育討論会など教育内容及び方法の改善を図るための組織的な研究及び研修	1,225千円
新 血拴制御医学講座事業費（寄附講座） バイエル薬品株式会社からの寄附により、講座を開設 期間：平成21年度～平成26年度 寄附金総額：187,500千円	22,500千円
医学科講座研究費	166,359千円 (H20 166,359千円)
看護学科教員研究費	11,107千円 (H20 11,107千円)

○看護師の確保等

看護師等の確保対策を引き続き充実 看護学校訪問、車内広告など、看護師確保に向けた取組を継続	9,400千円 (H20 9,307千円)
新 新規採用看護師の宿舎確保 敷地外に看護職員専用宿舎を確保	30,000千円
看護師研修を引き続き充実 先進的な病院での派遣研修のほか、認定看護師資格取得、看護協会主催の研修参加に要する経費を助成 など	11,445千円 (H20 11,098千円)
新 ホルムアルデヒド対策 法令改正に対応するため、測定委託や簡易測定用機器を購入	4,394千円

○患者サービスの向上

新 患者アメニティ向上整備 救急・夜間玄関改修、患者の憩いのスペースを確保（H20から継続） A棟外来エレベータ整備、検査用トイレ整備	100,000千円
新 テレビ共聴設備デジタル放送対応化工事 2011年からのテレビ地上放送デジタル化に対応	11,000千円
緩和ケアチーム運営経費の充実 研修会開催経費など緩和ケアチームの運営経費を充実	1,812千円

○病院運営の合理化、経営改善の推進

新 病院機能評価の受審準備 病院機能評価の受審に向けた支援業務を委託	5,400千円
院内物品管理委託（SPD）の本格稼働 院内における診療材料物品の管理、配送等を業者委託して、院内物流を合理化	55,440千円 (H20 23,000千円)
新 レセプト院内審査支援システムの導入 レセプト作成の精度向上、査定を減少を目的としてエラーチェックシステムを導入	11,500千円
新 病棟整備 稼働病床確保のため、A棟7階北病棟を改修	40,000千円
未収金対策事業 未収金回収のための定期的督促の実施、回収困難なものは債権回収会社に回収を委託	5,702千円 (H20 7,335千円)
医療用備品の整備	450,000千円 (H20 450,000千円)

真に誇りある看護学生を育てるために

看護学科長 飯田 順三

まず今回の看護学科学生の不祥事について本学関係者の皆様には深くお詫びしたいと思います。なぜこのようなことになってしまったのか。看護学科の大学教育とはどうあるべきか。このことを契機に考え直さなければいけないと思います。

この20年間の看護学教育の変遷はめまぐるしいものがあります。看護系大学の数は平成元年にはわずか11校でしたが、年々増加し、平成20年には168校へと増加しました。これに伴い、大学で教育される看護師の人数(1学年定員)は平成元年には539人でしたが、平成20年には13,163人に達しています。看護師の全教育課程を併せた1学年の定員数は約5万人と変わっていません。つまりかつては看護職の中で1%であった大学卒業生が、現在では25%を占めていることとなります。本学も平成8年にそれまでの看護専門学校から看護短期大学部に、平成16年に医学部看護学科の4年制大学に改組しています。しかも全国的には大学院の設置が増加しています。平成20年度では修士課程が107箇所、博士課程が47箇所の大学院に設置されています。

このような急激な看護学教育における高学歴化の中で看護学生はどのように変化しているのでしょうか。確かに偏差値は高くなり、本学の看護学科でもいわゆる関関同立と同程度の難易度になっています。習得すべき知識や技術は大幅に増え、カリキュラムは大変過密な状況です。しかしそれと並行して看護師としての使命感や誇りが高まっているわけではないようです。いわゆる女子大学化してしまいむしろ使命感は低下しているかもしれません。過密なカリキュラムに押し潰されて疲弊している学生もいます。また今どきの大学生は全般に幼く、社会性が乏しい部分もあります。

我々教官はこのような学生をどのように教育すればよいのでしょうか。もう大学生なのだから自己責任でしてもらおうという考え方もありますが、現在の状況ではそうはいかないように思います。おとなの仲間入りをしかけながら、まだ危うい学生にきめ細やかなアドバイスと見守りが必要です。教官は積極的に学生とコミュニケーションをとって彼らの学習、生活全般、クラブ、アルバイト、人間関係、家庭での悩みなど多岐にわたって相談に乗る姿勢が必要ではないかと思えます。教官の方から学生との距離を縮めるようなシステムを造る必要がありそうです。

現代は医師と看護師は協同して医療にあたる時代です。看護学は医学の付属物ではなく、独立した学問です。医学が進歩するにつれて疾患にのみ注意が向き、疾患を持った人を忘れつつあるのに対して、看護学では常に疾患を持っている人に注目します。つまり看護学は医学を見事に補完しているのです。

そのような立派な看護学を修め、医師と協同して医療にあたらうとする誇りと使命感を持つ看護師を育成しなければなりません。最近「おくりびと」という納棺師を描いた映画がアカデミー賞外国語映画賞に選ばれましたが、その納棺師の仕事にかける情熱と誇りは感動的でした。本学の看護学生には薄っぺらなプライドではなく、本当の意味での誇りを持った看護師に育って欲しいと願います。そのために我々教官は自分の持っているすべてを注ぎ込む情熱が必要です。看護学科はまだ歴史が浅く、土台がしっかりしていませんが皆で力を合わせて地道な努力を続けて行きたいと思えます。最後になりましたが医学科の先生方の御指導をよろしくお願い致します。



ホオジロ

【ホオジロ通信のいわれ】

ホオジロの鳴き声は「イッピツケイジョウツカマツリソウロウ(一筆啓上仕り候)」と聞こえるといわれます。本学教職員および関係者の皆様に一筆啓上仕るという意味で、この欄をホオジロ通信と名付けました。

チェンマイ大学との学術交流について

(学務課)

平成21年2月12日～2月22日までの11日間、タイのチェンマイ大学医学部から4名の学生が来学し、整形外科、産婦人科学、眼科学、精神科学において研究を行うとともに、本学学生とも実り多い交流がなされました。関係教室の先生方、本当にありがとうございました。また、本学からは吉栖教授引率により4名の学生が3月29日～4月7日まで、チェンマイ大学を訪れました。



医学部看護学科第2回卒業研究発表会開催!!

(看護学科)



去る1月8日・9日に厳樞会館を会場として、看護学科4年生による卒業研究発表会を開催しました。今年は78名から73演題が報告され、「基礎看護」「成人看護」「老年看護」「母性・助産看護」「小児看護」「精神看護」「地域看護」の7領域に分かれて、全員がポスターセッション形式で発表を行いました。各会場では同級生は勿論のこと、下級生の2年生・3年生も交えた活発な意見交換が行われていました。

当日は喜多医学部長や、卒業研究に多大なご協力をいただいた附属病院の看護師・スタッフも参加して頂き、学生は充実感を持って発表会を終了することができました。

公開講座「くらしと医学」を開催しました

(総務課)



平成20年度後期の公開講座を、2月21日(土)に奈良市の県文化会館国際ホールにおいて開催いたしました。

平成6年度から始まった公開講座も、今回で22回目の開催となり、今回の会場である文化会館での開催は15回目となりました。

当日は、約700名と多数の聴講者を得て3つの講座が開催され、まず、座長の木村弘第二内科学教授の紹介により、吉川雅則同准教授から「肺の生活習慣病COPDと"肺年齢"」と題して、続いて、濱田薫臨床病態医学教授の紹介により、飯田順三人間発達学教授から「キレル子どもの脳と心」と題して、大崎茂芳化学教授の紹介により東野義之第一解剖学教授から「血管の老化」と題して講義が行われ、それぞれ活発な質疑応答がなされました。

公開講座は、本学の地域貢献の一環として、「くらしと医学」をテーマに、広く県民の皆さんに、医学・看護学の知識を解りやすく解説し、日々の暮らしに役立てていただくことを目的として開催しています。

今年度は、9月12日(土)橿原文化会館、平成22年2月27日(土)文化会館において開催する予定ですので、ぜひご聴講くださるようお願いいたします。



吉岡学長挨拶



吉川准教授



飯田教授



東野教授

研究部長就任挨拶

病理病態学 教授 小西 登



本学は研究面において、「独創的・先端的研究を学際的・国際的に推進すること」を目的としております。しかし、法人化後の厳しい財政状況下では、研究部門の整備・支援は思うに任せず、研究者にとってややもすると不自由な環境下におかれているのかも知れません。研究部長にあつては、大学院生をはじめとする学内研究者が、本学の目的に沿って研究に打込み、十分な能力を引き出せる環境づくりにあると考えています。

大学院の人的充足や先端研施設部の拡充・再整備など取組まねばならない課題が山積しておりますが、加えて産学連携の活動も重要な課題となってきました。2004年4月、国立大学の法人化に伴って一段とその活動が進められ、多くの大学が学外共同研究の推進による成功をおさめていますが、本学ではその対応が少し遅れておりました。産学官連携推進委員会が昨年1年間議論を重ね、本年度よりいよいよ活動を開始しようとしています。多少のリスクはあるものの、研究面から収益を上げることは、ひいては本学の研究の活性化に繋がります。そのためには基盤づくりが最も重要で、その推進には教職員ならびに研究者の皆様方のご理解とご協力がなければ叶いません。本学が魅力のある研究体制を構築できるようご支援をお願い致します。

今回は、先端医学研究機構の研究単位である3教室の紹介をします。

医療情報学分野

医療情報学 (前)教授 堤 幹宏



医学は、疾病の予防、診断および治療を目的とした学問ですが、医学/医療には情報の収集は不可欠です。特に近年では、EBM(Evidence based medicine:根拠に基づいた医療)が求められていますが、医療情報学は、EBMを実践するための方策を探求するとともに、収集した情報を分析し、かつその分析データを医療、研究および教育に反映させることを目指しています。本学においても、2007年4月から電子カルテシステムが本格的に稼働し、医療情報の収集、分析の基盤が可能になりつつあります。これらの医療情報は、疾病の研究だけでなく、病院経営や地域医療連携にきわめて有用ですが、これらの情報を如何に有効に利用するかがこれからの課題であると考えています。今後、本学の電子カルテシステムを中心に、奈良県全域の医療情報ネットワークの構築が進められていくものと期待しています。

生命システム医科学分野(脳神経システム医科学)

生命システム医科学分野(脳神経システム医科学) 教授 坪井 昭夫



Darwinの生誕200周年にあたる2009年現在、ヒトからマンモスに至るまで数百種の生物ゲノムの解読により、「生物は共通祖先の下で統一性を有している」ことが裏づけられ、「omics」に代表される生命科学の網羅的な解析技術や「GFP」に代表される可視化技術などが急速に進歩しています。私は奈良医大で、このような革新的な技術を迅速に導入しながら、より高度な技術と洞察力を持った医師・研究者を育成する責務があると思っています。また、普遍的な問題の解決に果敢に挑戦し、「古の匂いの香る奈良の地」から特徴ある研究成果を、広く世界へ発信しなければならぬと考えています。本講座では、匂い感覚のシステム、即ち、嗅覚系をモデルにして「神経回路がどのようにして形成され維持されるのか、また神経回路が何らかの原因で破壊された時、どのようにして再構築されるのか」を理解し、嗅覚系にとどまらず中枢神経系全般に適用し得る基本原理を解明する所存です。更に、これらの基礎研究を通して、嗅覚障害のみならず中枢神経疾患の予防・治療や、「iPS細胞」を絡めた再生医療などの臨床的な応用も目指しています。私共と一緒に研究に取り組んで下さる学生や大学院生の方々を募集していますので、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、宜しく願いいたします。

生命システム医科学分野(循環器システム医科学)

生命システム医科学分野(循環器システム医科学) 教授 中川 修



私達の研究グループは、循環器系と骨格筋の発生・分化機構と疾患機序を明らかにするため、分子生物学的手法と動物モデルを用いた基礎研究を進めています。また、基礎研究において得た知見をもとに、臨床講座に共同研究をお願いして患者遺伝子変異などの解析も行いたいと考えています。昨年の発足以降、各講座や事務部門の皆様にご迷惑お世話になって研究室のセットアップを続けていますが、学内共同研究のメンバーや学生も含めて研究室が少しずつ賑やかになってきました。様々な講座の先生に参加していただき、研究情報の交換や実験手技の質問ができるEmail情報交換グループを始めました。若手研究者・大学院生・学生の皆様、よろしければ是非ご参加ください。今後ともご指導をよろしくお願い申し上げます。

研究室Website URL:<http://www.narmed-u.ac.jp/amrc-lab2/>

退任挨拶「感謝、感謝」

先端医学研究機構医療情報学分野 教授 堤 幹宏



医療情報部の仲間達と

平成17年1月に着任して以来、電子カルテシステムの開発・構築を行って参りましたが、平成19年4月から電子カルテを稼働させることができました。本学教職員すべてのご協力のおかげだと感謝しています。稼働後2年が経ち、ようやく安定してきたかなと思っておりますが、その間、本当に多くの方々にご迷惑をおかけしたことをお詫びし、反省をしています。しかし、それらの諸問題と一緒に取り組み、1つずつ解決してこれたのは、電子カルテ委員会のメンバーをはじめとした、多くの方々から頂いたアイデアとご協力のおかげだと感謝しております。4年3ヶ月という短い間でしたが、本当にたくさんのお話を学ばせていただきました。

本当にありがとうございました。

(事務局より)総合研究棟の共用備品についてHP掲載いたしました。掲載したばかりで不十分な点もございますが、今後も充実させていく予定ですのでよろしく願いいたします。 <http://top.narmed-u.ac.jp/jimu/kenkyu/souken-bihin.pdf>

平成20年度 外部資金受入状況一覧

(1) 厚生労働科学研究費補助金

(研究推進課)

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者名等
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業		理事長・学長	吉岡 章	第Ⅷ、第Ⅸ因子製剤のインヒター発生要因に関する研究	奈良県立医科大学 吉岡 章
循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業	第一内科学	教授	齋藤 能彦	M3を用いた脳卒中発症・再発防止のためのより有効な降圧治療のエビデンスの創出	奈良県立医科大学 齋藤 能彦
こころの健康科学研究事業	精神医学	教授	岸本 年史	精神障害者喫煙対策総合研究	奈良県立医科大学 岸本 年史
感覚器障害研究事業	耳鼻咽喉頭頸部外科学	教授	細井 裕司	新しい音伝導ルートによる新補聴システムの開発-既存の気導補聴器が使用できない難聴者(耳漏のある耳、外耳道閉鎖症など)も使用可能な補聴器の開発-	奈良県立医科大学 細井 裕司
食品の安心・安全確保推進研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	食品によるバイオテロの危険性に関する研究	奈良県立医科大学 今村 知明
健康安全・危機管理対策総合研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	通信連絡機器を活用した健康機器情報をより迅速に収集する体制の構築及びその情報の分析評価に関する研究	奈良県立医科大学 今村 知明
地域医療基盤開発推進研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	医師のキャリアパスを踏まえた地域偏差等の動態分析および医師需給の適正化に関する研究	奈良県立医科大学 今村 知明
政策科学総合研究事業／政策科学推進研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	医療における情報活用を行う上での適切な疾病分類に関する研究	奈良県立医科大学 今村 知明
難治性疾患克服研究事業	第一内科学	教授	齋藤 能彦	特発性心筋症に関する調査研究	国立循環器病センター 北風政史
難治性疾患克服研究事業	第二内科学	教授	木村 弘	呼吸不全に関する調査研究	京都大学 三嶋 理晃
医療技術実用化総合研究事業	第二内科学	教授	木村 弘	慢性呼吸不全に対するグレリンの臨床応用	宮崎大学 中里雅光
難治性疾患克服研究事業	神経内科学	教授	上野 聡	スモンに関する調査研究	国立病院機構鈴鹿病院 小長谷 正明
難治性疾患克服研究事業	神経内科学	教授	上野 聡	重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究	東北大学 奈山 泰人
循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業	神経内科学	教授	上野 聡	M3を用いた脳卒中発症・再発防止のためのより有効な降圧治療のエビデンスの創出	奈良県立医科大学 齋藤 能彦
こども家庭総合研究事業	産婦人科学	教授	小林 浩	全国規模の多施設共同ランダム化比較試験と背景因子分析に基づく早産予防ガイドラインの作成	昭和大学 岡井 崇
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業	小児科学	教授	嶋 緑倫	第Ⅷ、第Ⅸ因子製剤のインヒター発生要因に関する研究	奈良県立医科大学 吉岡 章
エイズ対策研究事業	小児科学	教授	嶋 緑倫	血友病の治療とその合併症の克服に関する研究	自治医科大学 坂田 洋一
こころの健康科学研究事業	精神医学	教授	岸本 年史	自殺対策のための戦略研究	藍野大学 高橋 清久
難治性疾患克服研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	愛媛大学 橋本 公二
政策創薬総合研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	帯状疱疹ワクチン開発のための疫学研究	医薬基盤研究所 山西 弘一
がん臨床研究事業	泌尿器科学	教授	平尾 佳彦	早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究	九州大学 内藤 誠二
感覚器障害研究事業	耳鼻咽喉頭頸部外科学	助教	西村 忠己	新しい音伝導ルートによる新補聴システムの開発-既存の気導補聴器が使用できない難聴者(耳漏のある耳、外耳道閉鎖症など)も使用可能な補聴器の開発-	奈良県立医科大学 細井 裕司
感覚器障害研究事業	耳鼻咽喉頭頸部外科学	助教	阪口 剛史	新しい音伝導ルートによる新補聴システムの開発-既存の気導補聴器が使用できない難聴者(耳漏のある耳、外耳道閉鎖症など)も使用可能な補聴器の開発-	奈良県立医科大学 細井 裕司
循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業	放射線医学	教授	吉川 公彦	M3を用いた脳卒中発症・再発防止のためのより有効な降圧治療のエビデンスの創出	奈良県立医科大学 齋藤 能彦
難治性疾患克服研究事業	輸血部	教授	藤村 吉博	血液凝固異常症に関する調査研究	慶應義塾大学 村田 満
エイズ対策研究事業	感染症センター	教授	古西 満	重篤な日和見感染症の早期発見と最適治療に関する治療	長崎大学 安岡 彰
食品の安心・安全確保推進研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	国際食品規格の策定プロセスに関する研究	京都大学 里村 一成
食品の安心・安全確保推進研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	対象別の適切な食品安全情報の教材と食品安全ナビゲーター人材養成プログラムの開発に関する研究	徳島大学 關澤 純
食品の安心・安全確保推進研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握と治療法の開発等に関する研究	九州大学 古江 増隆
循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	M3を用いた脳卒中発症・再発防止のためのより有効な降圧治療のエビデンスの創出	奈良県立医科大学 齋藤 能彦
障害保健福祉総合研究事業	看護学科 人間発達学	教授	飯田 順三	トレット症候群の治療や支援の実態の把握と普及啓発に関する研究	東京大学 金生 由紀子

(2) 厚生労働省 がん研究助成金

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者名等
厚生労働省がん研究助成金 大腸がん肝転移の予知ならびに予防的治療に関する研究	分子病理学	教授	國安 弘基	分子病理から見た大腸癌の転移機序	国立がんセンター中央病院 藤田 伸
厚生労働省がん研究助成金 がん治療におけるIMRの技術向上と標準化に関する研究	放射線医学	博士研究員	阪口 浩	肝・胆・膵悪性腫瘍に対するIMR治療に関する研究	愛知がんセンター中央病院 稲葉 吉隆
厚生労働省がん研究助成金 難治がんの総合的な対策に関する研究	放射線医学	博士研究員	阪口 浩	肝・胆・膵ならびに骨盤内悪性腫瘍に対する血流動態に応じた血管内治療法の開発に関する研究	国立がんセンター中央病院 田村 友秀
厚生労働省がん研究助成金 ヒトがん発生に係る環境要因及び感受性要因に関する研究	ラジオアイソトープ実験施設	博士研究員	堤 雅弘	膵がん発生に係る環境要因及び内因性要因に関する研究	国立がんセンター研究所 中釜 齊
厚生労働省がん研究助成金	口腔外科学	教授	桐田 忠昭	がん治療による口腔内合併症の予防法及び治療法の確立に関する研究	国立がんセンター東病院 浅井 昌大

(3) 厚生労働省 精神・神経疾患研究委託事業

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者名等
厚生労働省 精神・神経疾患研究委託事業	看護学科 人間発達学	教授	飯田 順三	精神科医療における発達精神医学的支援に 関する研究 課題番号：20-5	国立精神・神経センター病院 沼知 陽太郎
厚生労働省 精神・神経疾患研究委託事業	看護学科 人間発達学	教授	飯田 順三	児童思春期強迫性障害（OCD）診断・治療 ガイドラインの検証及び拡充に関する研究 課題番号：20-6	東京大学 金生 由紀子

(4) 総務省

事業名	所属	職名	氏名	研究課題
戦略的情報通信研究開発推進制度 (SCOPE)	耳鼻咽喉・頭 頸部外科学	教授	細井 裕司	音情景分解に基づく音メディア・ユニバーサル・コ ミュニケーション・システムの研究開発
		助教	阪口 剛史	発声障害者補助のための統計的声質変換技術の研究 開発

(5) 内閣府 食品安全委員会

事業名	所属	職名	氏名	研究課題
食品健康影響評価技術研究	健康政策医学	教授	今村 知明	食品健康被害に伴う社会的過剰反応の確認、予測手 法の確立とこれを最小限に抑えるためのリスクコミ ュニケーション手法の確立

(6) 独立行政法人 科学技術振興機構

事業名	所属	職名	氏名	研究課題
地域イノベーション創出総合支援事業	生化学	教授	高澤 伸	REG遺伝子発現によるがんの予後診断法の実用化と 治療薬のグランドデザイン確立
産学共同シーズイノベーション化事業	住居医学	講師	村上 能庸	プロテアーゼ活性を指標とした新規アレルギー因子 の探索と測定技術の開発
戦略的創造研究推進事業	物理学	講師	高木 拓明	細胞における確率的分子情報処理の理論研究

(7) 財団法人 関西文化学術研究都市推進機構

事業名	所属	職名	氏名	研究課題
都市エリア産学官連携促進事業	泌尿器科学	教授	平尾 佳彦	泌尿器計測モジュールの開発
	産婦人科学	教授	小林 浩	妊婦見守りモジュールの開発

(8) 独立行政法人 医薬基盤研究所

事業名	所属	職名	氏名	研究課題
保健医療分野における基礎研究 推進事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	ワタナベ高脂血症ウサギを用いたインテリジェント ナノDDSおよび超音波の不安定プラークに対する影 響の確認、ウサギ動脈血栓閉塞モデルおよびアタ急 性心筋梗塞モデルにおけるインテリジェントナノ DDSと超音波併用による血栓溶解効果の確認に関する 研究
	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	08-17 経皮免疫製剤の臨床研究

(6) その他 財団法人

財団名	所属	職名	氏名	研究課題
ユニバール財団	地域健康医学	助教	富岡 公子	高齢者の聴力障害と認知機能・うつ症状との関連
日本腎臓財団	第一内科学	助教	久保 篤史	胚性幹細胞を用いたエリスロポエチン産生細胞の同 定とその産生制御についての検討
喫煙科学研究財団	第二内科学	講師	吉川 雅則	喫煙が体重減少をもたらす機序の解明：肺-消化管ネ ットワークからの探究
喫煙科学研究財団	臨床病態医学	教授	濱田 薫	喘息気道モデリングに及ぼす喫煙の影響
三井生命厚生事業団	産婦人科学	助教	成瀬 勝彦	アディポネクチンを指標とした妊娠糖尿病および妊 娠高血圧症候群の早期予知と介入効果～インスリン 抵抗性周産期疾患の減少を目指して～
母子健康協会	小児科学	助教	野上 恵嗣	血液凝固における第VIII因子活性化・不活性化機構の 解明と新たな凝固、抗凝固療法への応用
ライフサイエンス振興財団	生命システム 医科学分野 (脳神経シ ステム医科学)	助教	高橋 弘雄	マウス一次嗅覚神経回路形成の分子機構
内藤記念科学振興財団		助教	吉原 誠一	滑脳症原因遺伝子Arxによる嗅球介在神経細胞の 増殖・分化・移動制御の分子機構の解析
内藤記念科学振興財団		教授	中川 修	新規リン酸化酵素SRPK3の病態生理学的意義と作用 メカニズム
武田科学振興財団		教授	中川 修	転写調節因子複合体の循環器疾患の成因における意 義
医科学応用研究財団		教授	中川 修	新しい心血管特異的転写因子複合体による遺伝子発 現調節の循環器疾患における意義
先進医薬研究振興財団	生命システム 医科学分野 (循環器シ ステム医科学)	教授	中川 修	心室筋特異的遺伝子発現調節機構の心筋分化・再生に おける意義
富田心臓病研究振興基金		教授	中川 修	転写調節因子による心臓発生調節の生理学的・病態生 理学的意義
ノバルティス科学振興財団		教授	中川 修	血管発生・成熟機能の調節メカニズムと疾患機序にお ける転写調節の意義
喫煙科学研究財団		教授	中川 修	転写調節因子の機能調節機構と喫煙関連物質の影響
成人血管病研究振興財団		教授	中川 修	血管病の成因と治療に対する集学的共同研究

これ以外にも平成20年度における外部資金の受入がありましたら研究推進課にお知らせください。

受賞者			賞の名称	受賞論文等	受賞日
所属	職名	氏名			
生物学	教授	大西 武雄	日本放射線影響学会・学会賞	がん抑制遺伝子p53の役割	平成20年11月20日
生物学	教授	大西 武雄	国際癌治療増感研究協会・菅原賞	がん抑制遺伝子p53を標的としたがん治療増感	平成20年6月7日
生物学	講師	高橋 昭久	放射線影響研究奨励賞	放射線適応応答の分子機構の解明	平成20年3月18日
第二生理学	研究生	勝井 錬太	第4回 栗山照賞	A new possibility for repairing the anal dysfunction by promoting regeneration of the reflex pathways in the enteric nervous system	平成20年7月4日
第二生理学	助教	松吉 ひろ子	第7回 日本Neurogastroenterology (神経消化器病) 学会奨励賞	5-HT ₄ 受容体作動薬による排便反射(直腸-直腸反射と直腸-内肛門括約筋反射)促進作用のメカニズム	平成20年9月30日
第一内科学	医員	尾上 健児	第12回 日本心不全学会 最優秀ポスター賞	Soluble Fms-like Tyrosine Kinase1 (sFlt-1), A Candidate Molecule Involved in Pathophysiology of Cardio-Renal Connection.	平成20年10月17日
第二内科学	教授	木村 弘	第40回日本臨床分子形態学会論文賞	Treatment with chondroitinase ABC alleviates bleomycin-induced pulmonary fibrosis	平成20年10月3日
臨床病態医学	教授	濱田 薫			
消化器・総合外科学	講師	庄 雅之	American College of Surgeons International Guest Scholarship	Novel Postoperative Strategy for Pancreatic Cancer	平成20年10月12日
消化器・総合外科学	講師	庄 雅之	American Association for Cancer Research Scholar Award	New insights into targeting T cell negative pathway in tumor immunity	平成20年4月12日
消化器・総合外科学	医員	赤堀 宇広	American Association for Cancer Research Scholar Award	Induction of powerful secondary immune response by blocking T cell negative pathway prior to surgery	平成20年4月12日
消化器・総合外科学	助教	山田 高嗣	日本小腸移植研究会研究奨励賞	ES細胞から腸管神経系・神経堤細胞への分化誘導-Hirschsprung病に対する新たな治療戦略	平成20年3月1日
消化器・総合外科学	医員	榎本 浩士	第46回 日本癌治療学会 優秀演題賞	食道癌におけるCD45RO+メモリーT細胞の臨床意義についての検討	平成20年10月30日
脳神経外科学	助教	田村 健太郎	日本てんかん学会 優秀ポスター賞	早期の外科治療を行った難治性てんかん合併結節性硬化症の2例	平成20年10月18日
脳神経外科学	助教	田村 健太郎	奈良エビレブシークラブ最優秀賞	覚醒下手術が有効であった難治性てんかんの1例	平成20年1月26日
脳神経外科学	助教	田村 健太郎	奈良県医師会学術奨励賞	ペナンブラ領域におけるグルタミン酸再吸収に関わるギャップジャンクションの働きに関する研究	平成20年7月2日
整形外科	大学院生	重松 英樹	第23回日本整形外科学会基礎学術集会 最優秀ポスター賞	培養骨芽細胞シートを用いた人工骨における骨形成の特徴	平成20年10月24日
産婦人科学	助教	成瀬 勝彦	第60回日本産婦人科学会学術講演会 優秀演題賞 (周産期医学部門)	正常妊娠と妊娠高血圧症候群における多量体アディポネクチンの変動と脳性利尿ペプチドとの関連	平成20年4月15日
産婦人科学	助教	成瀬 勝彦	第13回病態と治療におけるプロテアーゼとインヒビター学会 (CPPT)学会奨励賞	ヒト満期胎盤の低酸素刺激によるプロテアーゼ産生の変化～生体由来絨毛細胞を用いた検討	平成20年8月22日
産婦人科学	助教	成瀬 勝彦	第16回世界妊娠高血圧学会 (ISSHP,ワシントンDC) Young Investigator Award	High Molecular Weight-Adiponectin and Brain-type Natriuretic Peptide in Preeclamptic Maternal Serum and Cultured Adipocyte	平成20年9月22日
放射線医学	助教	田中 利洋	日本IVR学会優秀論文賞 (2007)	Arterial Infusion of 5-Fluorouracil / Combined AJR with Concurrent Radiotherapy for Unresectable Pancreatic Cancer; Results from a Pilot Study AJR:189 No.2 P421~428 2007	平成20年5月16日
放射線医学	助教	田中 利洋	The 10th International Symposium on Interventional Radiology Certificate of Merite 日本IVR学会 (第10回国際IVR学会) 優秀発表賞	Alteration of pancreatic blood supply in arterial infusion chemotherapy for advanced pancreatic cancer	平成20年5月16日
麻酔科学	医員	林 浩伸	日本心臓血管麻酔学会 藤田昌雄賞	心臓大血管手術後の視機能障害についての検討	平成20年11月1日
輸血部	教授	藤村 吉博	第45回ベルツ賞2等賞	動脈血栓症の制圧: VWF-GPIIb/IIIa阻害剤による血小板凝集形成を調整するADAMTS-13の基礎・臨床病態解析	平成20年11月19日
輸血部	准教授	松本 雅則			
第三内科学	准教授	植村 正人			
小児科学	講師	杉本 充彦			
住居医学	准教授	服部 耕治	整形災害外科学研究助成財団 エーザイ奨励賞	可視光を用いたヒト関節軟骨定量評価法の開発	平成20年5月21日

奈良先端科学技術大学院大学と 相互協力に関する包括協定を締結

(研究推進課)

平成21年3月27日、本学と国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学は、医工学融合分野等における相互の学術交流を通じて、教育・研究・医療のレベルを一層高めることにより、研究開発の推進及び人材の育成を図り、地域社会の発展に寄与することを目的として、相互協力に関する包括協定を締結しました。

本学と奈良先端科学技術大学院大学との相互協力事項は、次のとおりです。



- (1)共同研究開発に関する事項
- (2)学部・大学院教育に関する事項
- (3)人材交流に関する事項
- (4)産学官連携に関する事項
- (5)研究成果の社会還元に関する事項
- (6)その他、協定の目的を達成するために両大学が必要と認める事項

今後、両大学が持つ知的・人的資源の幅広い交流を促進し、医工学融合分野等における教育、研究あるいは産学官連携において相互に協力し、種々の取り組みを進めて参ります。そして、その成果を広く地域社会への貢献に生かすことができるよう努めて参ります。

【調印式】

本学 吉岡理事長(右)と奈良先端科学技術大学院大学 安田学長(左)の間で協定書を交換

看護部から

インドネシア人看護師候補者が就労開始しました

日本とインドネシア共和国の経済連携協定により、平成21年2月13日から2人のインドネシア人看護師候補者が当院で就労しながら研修を始めています。2人の今の感想を書いてもらいましたので、原文で紹介합니다。

ヨノ カルジョノさん(ジャワ島出身) C棟8階に勤務

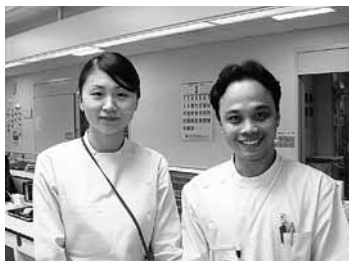
「はじめて病院に入る時、とても申し訳ないでした。今3週間ぐらいたちましたので、すこずつなれるようになりました。病院の方は ぜんたいに とてもやさしくて、しんせつな方なので、いろいろなことを 教えていただいております。おもしろくて、楽しいです。日本語はまだ上手にならないので ときどき まちがえます。また まちがえないように毎日がんばって勉強しようと思っております。日本語だけではなく、看護の専門とか、日本のぶんかや しゅうかんも がんばって勉強しようと思っております。」

アプリナルディ アブドゥル ムナフさん(スマトラ島出身) 高度救命救急センター病棟に勤務

「ならいかだいがく病院の しごとは たのしいです。いろいろなことが勉強できます。病院のかたは いっしょうけんめい働きます。きそくを まもります。じかんに せいかくです。病院が大きくて ぎじゅつが すすんでいきます。病院のみなさんは しんせつです」

2人は病棟スタッフや生活面での支援者の協力を受けながら頑張っています。今後は看護学科の学生ボランティアからも支援を受けながら日本語・看護の勉強を進めていきます。

皆様のご支援とご協力をお願いします。



C棟8階 右:ヨノ カルジョノさん
左:支援者の巽さん



救命センター 左:アプリナルディさん
右:支援者の橋田さん

病棟紹介

C棟8階



C棟8階病棟は、呼吸器・血液内科・総合診療科・感染症センターの混合病棟です。

呼吸器疾患では、肺癌、慢性呼吸器疾患が多く、血液疾患では白血病、悪性リンパ腫などの患者さんが入院されています。

総合診療科は、確定診断のために入院されます。

また、感染症センターでは新型インフルエンザやSARSなどの一類感染症にも対応できる設備が整っています。

看護師は総勢26名で明るく元気なスタッフが揃っています。化学療法・放射線療法・骨髄移植などを受ける患者さんに良い看護が行えるよう皆と協力し日々励んでいます。

ターミナル期の患者さんも入院されているため、辛いこともあります。看護師として人として大きく成長できる病棟です。

中央手術部



中央手術部は、手術室14室、年間5700件の手術を行っています（H19年度）。

対象は生後1日目から90代までと幅広い年齢層で、42名の看護師が「安全な手術環境を提供する」を目標に看護に携わっています。将来の周手術期看護師を目指した「麻酔研修」を教育に取り込んだ教育を検討・進めています。

中央放射線部



中央放射線部は、病院の先端医療の要です。医師・放射線技師・受付の人達との協働で四位一体のチーム医療を展開しています。検査件数は、CT・MRIなどの各種造影検査、血管造影やIVRを含め、1日120～140件行っています。

対象の患者さんも生後間もないベビーから超高齢者まで、さまざまな世代の方々とかかわります。担当する看護師も若者ナースから、看護も人生経験も豊か、体型も豊かなナースが18名勢ぞろいです。看護部のイベント参加もよく、家族ぐるみで和気あいあいと行動することが明るい職場の雰囲気にもつながっています。これからも、コミュニケーション技術を磨き、高い倫理観を持ったエキスパートナースを目指し、「笑顔も技術も心も患者さんに届いていますか？」を合言葉に努力しています。

羽竹教授に法務大臣感謝状が贈呈されました

(法医学教室)



奈良地方検察庁・検事正より

法医学教室の羽竹勝彦教授が3月6日に奈良地方検察庁において、法務大臣から鑑定医業務に対する感謝状を贈呈されました。羽竹教授は、これまでも警察から感謝状を多数贈呈されていますが、法務大臣からの感謝状は初めてであり、本学にとっても大変名誉なことです。

羽竹教授は平成7年に兵庫医科大学教授から本学教授として赴任され、以来14年にわたって、1100体以上に及ぶ奈良県内の法医解剖のほぼすべてを御一人で鑑定してこられました。今回の感謝状贈呈は、的確な鑑定と刑事司法の適正な運用への貢献が顕著であるため、検察庁

から法務大臣へ推薦されたことによるものです。

近年、法医解剖は社会情勢とともに全国的に増加し、本教室において年間120～140体の解剖を行っておりますが、これは全国平均よりやや多い数字で決して多くはありません。法医学の社会的重要性が広く認識されるようになり、この感謝状を機に社会医学としての貢献性を理解していただければ幸いです。

医学部看護学科同窓会開催のお知らせ (H.20改称)

(医学部看護学科同窓会事務局)

日 時：平成21年6月27日(土)10:00～15:00

場 所：橿原観光ホテル

参加費：5000円

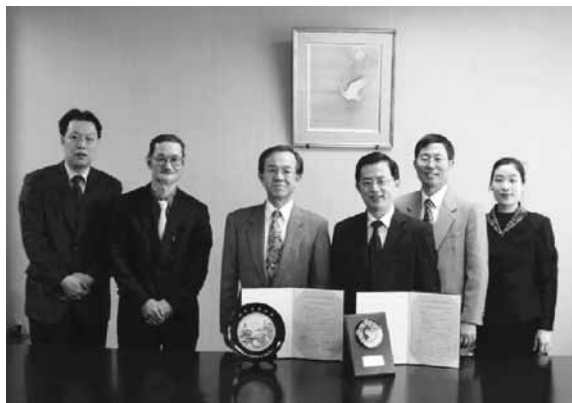
平成21年は3年に1回の開催年になります。多くの方に参加いただきますようお願いします。

詳細は、同窓会事務局(内線2747または2773)まで

住居医学研究会を開催します！

回数	第26回	第27回
日時	平成21年4月22日(水) 16:00～17:30	平成21年5月21日(木) 16:00～17:30
演題	住居と快適性 - その生理的アプローチ	住環境と健康
講師	千葉大学環境健康フィールド科学センター 自然セラピープロジェクト 教授 宮崎 良文 先生	近畿大学医学部環境医学・行動科学教室 助教 東 賢一 先生
会場	基礎医学校舎 5階会議室	基礎医学校舎 5階会議室

福建医科大学との 学術交流協定を更新しました



協定書を更新しました

(研究推進課)

福建医科大学(中華人民共和国)との学術交流協定は、2004年(平成16年)に締結され、5年毎に内容を再検討のうえ、随時更新することができますこととされています。去る3月23日に福建医科大学の吳小南副学長ら3名が来学され、学長室にて、2009年(平成21年)度から5年間の協定書の更新を行うとともに、今後の両大学の更なる交流の推進を約束しました。

福建医科大学：<http://www.fjmu.edu.cn/> (本学「関連リンク」もご覧ください。)

平成20年度 中島佐一学術研究奨励賞決定!

(研究推進課)

奈良県立医科大学において医学の学術研究に優れた業績をあげた若手教員を対象として募集したところ9件の応募があり、平成21年2月9日に開催された選考委員会で審査した結果、次の2名の方が受賞の栄冠に輝きました。

所 属	職 名	氏 名	研 究 テ ー マ
小児科学	助教	野上 恵嗣	「血液凝固第 因子の構造・機能連関」 血液凝固における第 因子活性化・不活性化機構の解明と新たな凝固・抗凝固療法への応用に関する基礎研究
生理学第二	助教	張 国興	心肥大を伴う不全心形成におけるSERCA2と酸化ストレスの役割

なお、授賞式と受賞者による講演会は、平成21年度の奈良医学会総会において、以下のとおり執り行いますので、ご出席いただきますようお願いいたします。

第129回奈良医学会 総会概要

日 時：平成21年6月16日(火) 午後6時～8時

会 場：臨床第一講義室

プログラム

中島佐一賞授賞式及び受賞者講演会	表彰状授与式・選考講評 学長 吉岡 章
奈良医学会招待講演	理化学研究所・脳科学総合研究センター・神経発達障害研究グループディレクター 東京大学名誉教授 御子柴 克彦 先生 「脳神経系の発生と分化の分子・細胞生物学的解析 - IP ₃ 受容体の発見とその解析を中心として - 」

国家試験結果

3月27日、厚生労働省により第103回医師国家試験(2月14~16日実施)の合格者が発表されました。今回の試験結果は下表のとおりです。

第103回医師国家試験

本学医学部医学科			
区分	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
新卒	98	97	99.0
既卒	9	3	33.3
計	107	100	93.5

平均合格率			
全国	国立	公立	私立
94.8	95.5	97.0	93.4
54.3	53.1	48.6	56.0
91.0	91.9	94.4	89.0

看護師(2月20日実施)、助産師(2月19日実施)、保健師(2月22日実施)国家試験の合格者が3月26日に発表されました。試験結果は下表のとおりです。いづれの区分も全員合格を達成しました。

第98回看護師国家試験・第92回助産師国家試験・第95回保健師国家試験

本学医学部看護学科			
区分	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
看護師(新卒)	69	69	100
(既卒)	2	2	100
計	71	71	100
助産師(新卒)	12	12	100
(既卒)	1	1	100
計	13	13	100
保健師(新卒)	76	76	100
(既卒)	4	4	100
計	80	80	100

平均合格率			
全国	大学	短大	養成所
94.4	97.5	92	95.9
47.4	71.5	61.4	55.8
89.9	96.7	88.2	93.2
99.9	99.9	100	100
100	100	100	100
99.9	100	100	100
98.5	98.5	98.1	97.8
85.4	86.7	87.5	67.4
97.7	97.8	97.4	95.9

平成20年度 学位授与の状況

次の42名に学位が授与されました。

本審査日 平成20年5月13日(火)

(甲) 北村 華奈 皮膚病態医学
 (乙) 牧之段 潔 内科学
 赤堀 宇広 消化器・総合外科学
 金山 清二 産婦人科科学
 永田 剛史 放射線医学

西 智 視覚統合医学
 横井 祥子 皮膚病態医学
 武山 雅博 分子病態制御医学
 山川 延宏 口腔・顎顔面機能制御医学
 前川 尚宜 血管神経再建医学
 重松 英樹 運動器再建医学
 (乙) 石田 英和 病理病態学
 大槻 憲一 消化器・総合外科学
 若月 幸平 消化器・総合外科学
 姜 昌勲 精神医学
 穴井 智 泌尿器科学
 高山 勝年 放射線医学

本審査日 平成20年7月8日(火)

(甲) 富岡 厚志 泌尿器・男性機能制御医学
 牧之段 学 精神医学行動神経科学
 (乙) 笹平 智則 分子病理学
 勝井 鍊太 消化器・総合外科学
 井上 雄一郎 精神医学
 明山 達哉 泌尿器科学
 辻本 賀洋 泌尿器科学
 東浦 涉 放射線医学
 團野 大介 総合医療学
 新 靖史 脳神経外科学

本審査日 平成21年3月5日(木)

(甲) 染川 智 内科学
 牧之段 恵里 分子機能形態学
 石川 昌利 消化器病態制御医学
 玉井 克弥 運動器再建医学
 藤井 宏真 運動器再建医学
 (乙) 堀井 学 内科学
 森岡 千恵 内科学
 鄭 倫成 脳神経外科学
 阪本 達哉 整形外科科学
 森本 賢吾 放射線医学

本審査日 平成20年12月9日(火)

(甲) 木村 久仁子 内科学
 西脇 知永 神経内科学
 飯田 秀之 皮膚科学
 松田 良介 外科学
 辰巳 公平 発達・成育医学

平成21年度入試結果

区	分	募集人員	志願者数(A)	受験者数	合格者数(B)	追加合格者数(Bの内数)	入学者数	志願倍率(A)/(B)	前年度志願倍率
医学科	推薦	5	43	25	5	0	5	8.6	2.4
	前期	65	273	253	65	0	65	4.2	3.6
	後期一般	20	230	103	22	2	20	11.5	8.0
	後期地域	15	49	16	15	0	15	3.3	5.7
	小計	105	595	397	107	2	105	5.7	4.6
看護学科	編入学一般	5	35	34	17	12	5	2.1	1.9
	編入学地域	10	28	27	13	3	10	2.2	2.4
	推薦	25	58	58	25	0	25	2.3	4.0
	社会人	5	22	19	5	0	5	4.4	6.4
	前期	40	107	106	40	0	40	2.7	4.2
	後期地域	10	62	30	11	1	10	6.2	10.7
小計	95	312	274	111	16	95	2.8	4.9	
医学部	合計	200	907	671	218	18	200	4.2	4.8

承認された規程、委員会名簿等については、随時、ホームページにて公開しています。

学内ホームページURL（閲覧は学内のみ可能）

<http://top.naramed-u.ac.jp/>

「規程・名簿タブ」

公開ホームページに掲載

<http://www.naramed-u.ac.jp/aff/johokoukai/>

（総務課）

役員会及び教育研究審議会の報告

第41回 役員会（1月7日）

- 1 11月末現在の財務状況を報告
- 2 校内設置の防犯カメラ録画映像の確認内規を報告

第15回 教育研究審議会（1月8日）

- 1 産婦人科学・小林教授より提出された発明届について特許等を受ける権利を法人が承継することを決定
- 2 総合医療学教授の選考について検討
- 3 （仮称）中期計画推進委員会について委員会を設置すること及び規程を制定することを承認
- 4 2月1日付け教員の人事について役員会に提案
- 5 寄生虫学・石坂教授を任期制教員の再任審査委員会委員に任命
- 6 平成21年度年度計画（案）について意見聴取
- 7 学術研究奨励会から移管する規程（案）について役員会に提案
- 8 寄附講座の申し出について名称を「血栓制御医学」として役員会に提案
- 9 研究生規程の一部改正（案）及び専修生規程の一部改正（案）について役員会に提案
- 10 バイオセーフティ委員会委員の選任を報告
- 11 医学科推薦選抜の出願状況を報告

第42回 役員会（1月8日）

- 1 2月1日付け教員の人事を決定
- 2 学術研究奨励会から移管する規程を決定、4月1日付けで施行
- 3 寄附講座の受入を決定
- 4 研究生規程の一部改正及び専修生規程の一部改正を決定、1月8日付けで施行

第43回 役員会（1月14日）

- 1 OSCE用品の購入費用として、教育研究基金の充当を決定
- 2 中期計画推進委員会規程を決定、1月14日付けで施行

第44回 役員会（1月21日）

- 1 奨励会職員の移行について検討、継続審議
- 2 大学院の充実にについて検討、継続審議

第45回 役員会（1月28日）

- 1 寄附講座教員の選任について教育研究審議会へ提案
- 2 R I排水処理施設（貯留槽）の取換工事の概要を報告
- 3 看護学科カリキュラム変更の承認を報告
- 4 医療職採用試験の合格者を決定
- 5 看護職員採用試験の合格者を決定
- 6 看護学科学生の逮捕報道を報告、対応検討

第46回 役員会（2月3日）

- 1 奨励会職員の移行について審議、奨励会評議会での検討を依頼
- 2 平成21年度年度計画（案）の教育研究審議会提案を決定
- 3 平成21年度予算（案）の教育研究審議会提案を決定
- 4 利益相反規程（案）の教育研究審議会提案を決定
- 5 12月末現在の財務状況を報告
- 6 大学院博士課程研究奨励賞の実施を報告

第16回 教育研究審議会（2月5日）

- 1 精神医学助教牧之段学氏の海外留学を承認
- 2 血栓制御医学講座教授候補者について役員会に提案
- 3 中期計画推進委員会委員の選任（案）について役員会に提案
- 4 平成21年度年度計画（案）について意見聴取
- 5 平成21年度予算（案）について意見聴取
- 6 利益相反管理規程（案）について役員会に提案
- 7 ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会委員はじめ4件の委員会委員の選任について学長一任を承認
- 8 教員の人事について報告
- 9 大学院博士課程研究奨励賞の実施を報告

第47回 役員会（2月5日）

- 1 中期計画推進委員会委員を決定
- 2 血栓制御医学講座教授として杉本充彦氏を決定
- 3 利益相反管理規程を決定、2月5日付けで施行

第48回 役員会（2月18日）

- 1 料金の一部改正（案）の経営審議会への提案を決定
- 2 関連病院との連携協定（案）の関連病院協議会理事会への協議を承認
- 3 学生に対し大麻に関する注意喚起を行った旨報告
- 4 学生の懲戒処分について懲戒諮問委員会を設置し検討することを決定
- 5 研究部長より研究部長職の辞任願が提出された旨報告

第49回 役員会（2月25日）

- 1 平成21年度年度計画（案）の教育研究審議会提案を決定
- 2 平成21年度予算（案）の教育研究審議会提案を決定
- 3 教室職員就業規則の制定及び日々雇用職員に関する就業規則の一部改正を決定し、4月1日付けで施行
- 4 先端研に関連する規程の改正等の教育研究審議会提案を決定
- 5 法人化前に際して継承した知的財産権について奈良県に対し特許権の無償譲渡の申し出を行うことを決定
- 6 国際交流センターの設置について教育研究審議会提案を決定
- 7 渉外委員会委員の選考について学長一任を承認
- 8 コーヒーショップの募集を報告
- 9 看護職員採用試験の合格者を決定

第17回 教育研究審議会（3月3日）

- 1 平成21年度年度計画（案）について役員会に提案
- 2 平成21年度予算（案）について承認
- 3 先端研に関連する規程の改正等について役員会に提案
- 4 国際交流センターの設置について役員会に提案
- 5 研究部長の辞任を承認、選考までの間、医学部長による兼務を決定
- 6 4月1日付け教員人事について役員会に提案
- 7 特任教員の更新について役員会に提案
- 8 客員教授の更新について役員会に提案
- 9 臨床教授等の選考を決定
- 10 兼業審査委員会委員の選任について学長一任を承認
- 11 医学科学務委員会委員等、5件の委員会委員の選任を報告
- 12 学長賞及び大学院医学研究科博士課程研究奨励賞の授賞者を報告

第50回 役員会（3月3日）

- 1 平成21年度年度計画（案）を承認
- 2 先端研に関連する規程（「研究機構に関する規程」「施設部管理運営規程」「大中研管理運営規程」の一部改正および「研究単位の運営に関する規程」の制定）を承認、3月3日付けで施行
- 3 国際交流センターの設置を承認、関連する規程の整備並びに一部改正を承認、4月1日付けで施行
- 4 4月1日付け教員の人事を決定
- 5 特任教員の更新を決定
- 6 客員教授の更新を決定

第51回 役員会（3月4日）

- 1 職員修学全部休業規程の制定および職員就業規則の一部改正を承認、4月1日付けで施行
- 2 任期付職員（技術職）採用試験の実施を決定
- 3 任期を付して雇用する職員就業規則の制定を承認、4月1日付けで施行
- 4 1月末現在の財務状況を報告

第52回 役員会（3月11日）

- 1 21年度も引き続きインドネシア人看護師の受入申請を行うことを決定
- 2 教員の留学制度について教育研究審議会にて意見聴取することを決定
- 3 平成21年度組織・定数を決定
- 4 平成21年度資金収支を報告
- 5 平成21年度役員会等の開催日程を報告

第53回 役員会（3月18日）

- 1 職員給与規程等の一部改正（案）の経営審議会への提案を決定
- 2 医員処遇の見直しを決定
- 3 下記議案の教育研究審議会への提案を決定
(1) 教員の海外留学規程の一部改正（案）
(2) 奈良先端科学技術大学院大学との相互協力に関する協定の締結
(3) 医の倫理委員会規程の一部改正(案)
- 4 平成20年度決算見込を報告
- 5 平成21年度年度計画（案）を報告

第18回 教育研究審議会（3月19日）

- 1 第一内科学・久保助教より提出された発明届について特許等を受ける権利を法人が承継することを決定
- 2 名誉教授の称号授与を承認し役員会に提案
- 3 教員の海外留学規程の一部改正（案）について役員会に提案
- 4 精神医学・芳野助教、麻酔科学・瓦口助教の留学期間の延長を承認、感染症センター・笠原助教の海外留学を承認
- 5 4月1日付け教員人事について役員会に提案
- 6 特別研究員（ポスドク）の更新について役員会に提案
- 7 奈良先端科学技術大学院大学との相互協力に関する包括協定書（案）について役員会に提案
- 8 医の倫理委員会規程の一部改正（案）について役員会に提案
- 9 ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会委員等5件の委員会委員の改選を報告
- 10 放射線医学における外国人客員研究員の受入れを報告
- 11 平成21年度の教育研究審議会の開催日程等を報告
- 12 平成21年度年度計画（案）を報告

第19回 教育研究審議会（3月23日）

- 1 研究部長候補者として小西登氏を承認し役員会に提案

第55回 役員会（3月19日）

- 1 名誉教授の称号について4月1日付けで授与することを決定
- 2 教員の海外留学規程の一部改正を決定、4月1日付けで施行
- 3 4月1日付け教員の人事を決定
- 4 特別研究員（ポスドク）の採用更新について住居医学研究費の採択を条件として決定、4月1日付けで発令
- 5 先端大との協定の締結を決定、3月27日に調印式を開催
- 6 医の倫理委員会規程の一部改正を決定、4月1日付けで施行
- 7 学生の懲戒処分を決定

第56回 役員会（3月25日）

- 1 研究部長に病理病態学小西登教授を選任、4月1日付けで発令
- 2 医員及び臨床研修医にかかる就業規則の一部改正を決定、4月1日付けで施行
- 3 附属病院児童虐待防止委員会設置要領の一部改正を決定、4月1日付けで施行
- 4 短期借入金承認
- 5 渉外委員会委員の選任を報告
- 6 看護職員採用試験の合格者を決定

AEDを寄贈いただきました

(研究推進課)

この度、本学卒業生の船曳 将史様(医学科・平成14年3月卒業)から、「学生が安心して授業やクラブ活動に取り組めるようにしたい」とのお申し出があり、AEDの設置費用をご寄附いただき、本年3月に弓道場、大学本館1階、大講堂、体育館の4箇所にAEDを設置しました。船曳様のご寄附に対し深く感謝申し上げます。次第です。



設置されたAED

医学科卒業生からの苗木寄贈

(学務課)



平成20年度の医学科卒業生が、卒業記念として、学内の緑化に役立てばと、オタフクナンテンの苗木70株を大学に寄贈してくれました。

その披露が卒業式直前に行われ、謝恩会実行委員会の代表である松田未来さんは「末永く立派に育ってくれることを願っています。」と挨拶。それを受けて、吉岡学長は「苗木は入学式などでも披露した後、基礎医学校舎前に配置し、教職員や学生が大切に育てていきます。ときには思い出して、成長を見に来てください。」とお礼の言葉を述べました。

下ツ道

(編集後記)

日本中が熱狂したWBC連覇、素晴らしかったですね。この春奈良医大から卒業したサムライ達も、それぞれの夢や目標に向かい、医師・看護師としての一歩を踏み出します。また、今春は四名の教授が退任されました。奈良医大のために尽くされたサムライ達に心から感謝申し上げますと共に、今後のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

そして、いよいよ新年度のスタートです。大学本館前の満開の桜も、新しい門出に向けてエールを送っています。

掲載希望の記事等については、各編集委員までお知らせください。

今村 知明(健康政策医学)
大西 健(生物学)
粕田 承吾(法医学)
植村 正人(内科学第三)
中島小乃美(成人看護学)
橋口 智子(看護部)
福留 隆二(研究推進課)
鷹本 純史(学務課)
西村 和也(病院管理課)
鷹野 覚(総務課)
(印は編集委員長)